

平成24年度

研究紀要

自ら学ぶ力と豊かな心を 育てる情報教育をめざして ～メディア活用で育てる情報活用能力、 メディア活用で伸ばす確かな学力～



はじめに

学習指導要領の総則には「各教科等の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、コンピュータで文字を入力するなどの基本的な操作や情報モラルを身に付け、適切に活用できるようにするための学習活動を充実するとともに、これらの情報手段に加え視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること」とあります。既に各学校では情報機器の有効活用にむけて様々な工夫をされていることと思います。本研究会では「川崎の情報教育」として現在の情報教育の状況を踏まえた上で、理論研究を進め、情報教育の指導法の研究や学習環境の在り方、情報教育の内容などを示していこうと考えてきました。また、放送・視聴覚・図書・コンピュータ等を活用した実践研究を行ってきた中で、平成24年度の研究テーマを以下のように設定しました。

「自ら学ぶ力と豊かな心を育てる情報教育をめざして」

～メディア活用で育てる情報活用能力、メディア活用で伸ばす確かな学力～

上記研究テーマを具現化するために、2回の授業研究を行い研究推進に努めてきました。第1回目の授業は、研究主題のサブテーマである「メディア活用で伸ばす確かな学力」に視点をおき、ICTを活用した5年社会科と図書を活用した6年国語科の2つの授業を提案しました。第2回目は、「メディア活用で育てる情報活用能力」に視点をおき、1年国語科で低学年から育む情報活用能力についての授業を提案しました。授業にあたっては、3つの地区部会のプレゼンテーションをもとに授業原案選定会を行い、研究会全体としての方向性を明確にした新たな取り組みも行いました。

児童に求められている、情報を適切に活用する力の育成や表現力の向上を図るためには、まず、指導者側のリテラシーを高め、個々のスキルアップを図ることが必要です。また、学習者の目線に立った分かりやすい指導が重要になることは言うまでもありません。そのための研修にも力を注ぎ、川崎市総合教育センターとの共催研修として「教育の情報化」をテーマに、各教室に導入された大型テレビ・実物投影機を授業の中で有効活用するための研修を実施しました。図書の分野ではアニメーションやオノマトペ（擬態語・擬音）を体験するワークショップを開催し、読書の世界を広げる研修も好評でした。

また、長年にわたって実施している読書感想文コンクール・読書感想画コンクールやビデオ映像創作展といった子どもの豊かな心の育成と表現力の向上に関わる事業にも積極的に取り組み推進してきました。

広報活動としては、Webや「情報かわら版」（研究会会報）を通して、研究会活動の発信に努め、共に学び合う体制作りをめざしてきました。

ささやかな内容ですが、ここに研究会の活動を冊子にまとめました。この1年間の会員の研究や実践の跡をご高覧いただき、ご指導ご示唆をいただければ幸いです。それらを支えとして、「川崎の情報教育」を更に高めていきたいと考えております。

最後になりましたが、本研究会にいつも変わらぬご理解とご支援を賜りました川崎市教育委員会の皆様、川崎市総合教育センターの皆様方には深くお礼を申し上げますと共に今後のさらなるご指導とご協力をお願い申し上げます。

川崎市立小学校情報教育研究会
会 長 平井 弥三郎

目 次

はじめに

目 次

I. 研究報告

1. 川崎の情報教育 1
2. 今年度の研究 3
3. 実践報告
 - (1) 「確かな学力」をテーマにした研究授業（第1回授業研究会） 5
 - (2) 「情報活用能力」をテーマにした研究授業（第2回授業研究会） 17
4. 今後の課題 23

II. 事業報告

1. 平成24年度活動経過 24
2. 事業内容
 - (1) 情報（視聴覚・放送）主任会 26
 - (2) 図書主任会 27
 - (3) 夏季会員研修会（ICT） 28
 - (4) 夏季会員研修会（図書） 29
 - (5) 読書感想文・感想画コンクール 30
 - (6) ビデオ映像創作展 31
3. Webサイト・情報かわら版 32

おわりに 33

研究組織図 34

研究に携わった人 35

I. 研究報告

1. 川崎の情報教育

○ 私たちを取り巻く状況

新しい学習指導要領が完全実施となってから、2年目を迎えたのが今年度です。平成20年3月に文部科学省から告示された新しい学習指導要領では、各教科で教育内容が改善され、教育の情報化にかかわる内容についても教科指導におけるICT活用や情報モラル教育など、一層の充実が図られました。

(9) 各教科等の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、コンピュータで文字を入力するなどの基本的な操作や情報モラルを身に付け、適切に活用できるようにするための学習活動を充実するとともに、これらの情報手段に加え視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること。

(小学校学習指導要領 第1章 第4の2 (9) より)

また、新しい学習指導要領のもとで『教科指導におけるICT活用』、『情報教育の体系的な推進』、『校務の情報化の推進』といった教育の情報化が円滑にかつ確実に実施されるよう具体的な取り組みを示した「教育の情報化に関する手引」も平成21年3月に文部科学省より発表され、平成22年10月には追補版が公表されました。

さらに、昨年4月には今後の学校教育（初等中等教育段階）の情報化に関する総合的な推進方策をまとめた「教育の情報化ビジョン」が文部科学省から公表されました。

川崎市内の市立学校では、ICT環境の整備も進み、教室用コンピュータや50インチ大型テレビ、電子黒板、教材提示装置、ワイヤレスペンタブレットなどが配置され、『教科指導におけるICT活用』が日常的なものとなりつつあります。

私たちを取り巻くこのような新しい状況の中で、情報教育研究会が果たさなければならない役割は、ますます重要なものになってきていると考え、研究を進めてきました。

<<情報教育を大きく後押しする環境>>

新しい学習指導要領

教育の情報化に関する手引

学校に配置されたICT

大型デジタルテレビ

電子黒板

教室用コンピュータ

教材提示装置

ワイヤレスペンタブレット

映像・放送

図書

コンピュータ

川崎の情報教育

情報を取捨選択し、加工、表現する

自ら学ぶ力

正しい情報を見抜いたり、
ルールを守って送受信する
適切に情報を扱いながら

よりよい人間関係を築くことができる

豊かな心

図書教材や視聴覚教材の持つ、子どもの心に投げかける
感動や共感、それを生かした情報研ならではの授業によ
って、児童の情意面の育成を図ることで育てる

○ 私たちが目指す川崎の情報教育

私たち川崎市立小学校情報教育研究会は、これまでの研究や研修で「図書」や「映像・放送」「コンピュータ」などのメディアを活用しながら、情報教育によって子どもたちの情報活用能力の育成を図ってきました。また、ここ数年は各教科における教員や児童による ICT 活用などにも力を入れて取り組み、「わかる授業」をめざしてきました。

その中で、「子どもたちの主体的な学習には、より多くのメディアから自身が必要とする情報を取捨選択し、加工、表現しながら『自ら学ぶ力』を育成することが重要」だと私たちは考えてきました。さらに ICT によるコミュニケーションが氾濫する現代社会においては、正しい情報を見抜くことや、ルールを守ったり相手の状況を考えたりして送受信する双方向性の関係を充実させることも重要です。私たちはこれらのことを通して、適切に情報を扱いながらよりよい人間関係を築くことができる「豊かな心」の子どもたちを育てることが大切であると考えています。また、図書教材や視聴覚教材の持つ、子どもの心に投げかける感動や共感、それらを生かした情報研ならではの授業によって児童の情意面の育成を図り、「豊かな心」の子どもたちを育てることも大切であると考えています。

以上のことをふまえ、本年度も研究テーマを以下の様に設定しました。

研究テーマ

「自ら学ぶ力と豊かな心を育てる情報教育をめざして」

— メディア活用で育てる情報活用能力、メディア活用で伸ばす確かな学力 —

2. 今年度の研究について

○ 授業研究会

図書とICT、各メディアを活用した授業づくりの専門性を高めつつ、日頃の授業づくりに役立つような内容を提案していくことを目指して今年度の研究を進めていきました。

第1回授業研究会「メディア活用で伸ばす確かな学力」

7月4日（水） 5年生 社会科「水産業のさかんな地域をたずねて」
川崎市立宮崎台小学校 藤沢 俊太 教諭
6年生 国語科「私の主張～平和について考える」
川崎市立宮崎台小学校 高橋 恵 教諭

第2回授業研究会「メディア活用で育てる情報活用能力」

11月21日（水） 1年生 国語科「じどう車ずかんをつくろう」
川崎市立真福寺小学校 武川 恭子 教諭

① 第1回授業研究会


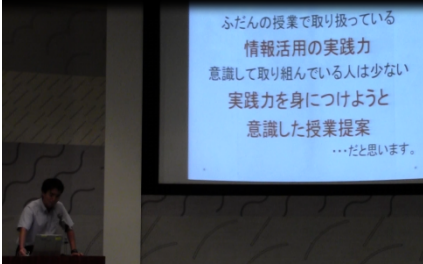

研究サブテーマ「メディア活用で伸ばす確かな学力」に対応して、メディアを効果的に授業に活用する視点から、ICT活用と図書活用について、2つの授業を提案しました。授業を通して、メディア活用のあり方について考えるのと同時に、大がかりな準備を必要とせず、日常の授業づくりに役立つような提案になるようにしました。

5年生の授業では資料や映像を、6年生の授業では図書やワークシートを、ICTを活用して拡大提示しました。教材の意図を明確にもって活用することで、子どもたちの学習に対する興味は増し、教師の指示がわかりやすく伝わることを確認できました。この授業では、印刷された絵を使って考え、動画を見ながら確認をする場面がありました。紙と動画、それぞれのメディアの特性を生かすことでより内容がわかりやすくなりました。一方で、使用する資料をもう少しおさえ、思考に使う時間の確保を、という意見も聞かれました。6年生の授業では、主に活動の指示にICTを活用しました。自分に必要な資料を探し当てることは簡単そうではなかなか難しいものです。索引の使い方、ワークシートの使い方などがICTを活用してわかりやすく示されたことで、子どもたちの活動はスムーズでした。



② 第2回授業研究会

「メディア活用で育てる情報活用能力」の授業については、3つの地区部会から授業アイデアの提案をし、選定会を通して授業を決定しました。3グループでテーマと授業について十分に話し合い、プレゼンテーションによる選定会を行うことで、研究会として方向性をはっきりさせて授業に取り組むことができるようにしました。

地区	授業原案選定会議での提案内容の概略	
南部 川崎区 幸区 中原区	<p>子どもたちの情報活用能力を育成するための授業提案</p> <p>～課題解決型学習を切り口に～</p> <p>情報活用能力を育成する場面は普段の授業の中に多くある。課題解決型の場面を取り上げ、つける力を明確にして授業をしていくという提案。5年国語「グラフや表を引用して書こう」が具体例として挙げられた。</p>	
中部 高津区 宮前区	<p>探求型の学習の流れと情報活用の実践力</p> <p>情報活用能力の育成の授業としては、取材や調べなどの情報収集、まとめや発表などの表現の場面が多く取り上げられる。しかし、その間の情報の整理や分析についてはあまり取り上げられない。6年総合「日光」を題材として、この部分の研究をしていきたい。</p>	
北部 多摩区 麻生区	<p>低学年から育てる情報活用の実践力</p> <p>情報の「収集・判断・表現」</p> <p>今までに1年生の情報教育の授業がなかったのはなぜか。それは、情報活用と1年生の学習内容と結びつけるのが難しかったのではないだろうか。1年生は情報活用の実践力の育成においても初期段階。1年国語「じどう車くらべ」を通して、この段階の情報活用の実践力について考えていきたい。</p>	

授業原案選定会議の結果、北部からの提案、**低学年から育む情報活用能力**について考えることになりました。

今回の授業では「メディア」から「はしご車のつくりとしごと」の情報を読み取り、作文につなげていく活動をしました。「メディア」には、絵、図鑑、写真、動画など様々なものがありますが、特に「動画」を扱いました。動画を見ることによって確かに自分の言葉ではしご車の動きについてのつぶやきが聞こえましたが、なかなかキーワードが出てきませんでした。

1年生の発達段階においては、動画には情報が多すぎて読み取りが難しいのではないかという反省が出されました。しかし、図鑑やミニカーだけで学習を進めていくよりも、迫力のある実際の映像を見たことで子どもたちは確実に課題を明確にして取り組む姿が見られました。これらのことから、低学年に読み取りを目的として示す資料は、情報を制限して示すことが大切なのではないかと考えることができました。

3. 実践報告

(1)「確かな学力」をテーマにした研究授業

第5学年2組 社会科学習指導案

指導者 川崎市立宮崎台小学校 藤沢 俊太

1. 日時・場所 平成24年7月4日(水)5校時 13:30～ 第5学年2組教室

2. 単元名 水産業のさかんな地域をたずねて

3. 単元目標

- ・水産業がさかんな地域について調べ、その地域の特色や人々の工夫や努力、悩みをとらえることができるようにする。
- ・水産業が加工や運輸などの仕事と密接にかかわり、水産資源や環境を守りながら漁業を進めていることに気づくことができるようにする。

4. 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
日本の水産業について意欲的に調べ、自分たちの食生活を支えている水産業が今後どのようなようになっていくとよいのか考えようとしている。 ①⑥⑧	水産業に携わる人々の工夫や努力、水産業と加工や運輸などの仕事とのかかわり、自然環境を守るための取り組みについて考え、適切に表現している。 ②③④⑥	水産業に関する資料や地図、統計などの資料を目的に合わせて、収集・選択し、的確に読み取っている。 ④⑤	日本の水産業がさかんな地域の様子や、日本の水産業の現状と課題を理解している。 ⑤⑦

※○の数字は○時間目の評価を表す。

5. 単元について

(1) 児童の実態とめざす子どもの姿

①児童の実態

男子19名、女子19名の38名の学級である。全体的に明るく、課題に対して意欲的に学習に取り組むことができる児童が多い。しかし、5年生の社会科で多く登場する表やグラフなどの資料をまだ上手く読み取ることのできない児童や、授業中の発言に苦手意識をもっていたり、自分の考えに自信がもてなかつたりする児童も見られる。

魚や海藻などの水産物は、家庭の食卓や給食にも出てくる子どもたちにとって身近な食材である。しかし、魚は切り身の状態しかイメージできなかつたり、自分たちが食べている魚がどのようにしてとられているのか知らなかつたりする児童も多い。前単元の「農業のさかんな地域をたずねて」では、農業に携わる人々の工夫や努力について学習した。社会の学習だけでなく、総合的な学習の時間にはバケツ稲を育て、稲の成長は天候が大きく左右することや、毎日欠かさず水を与えなければならないことなどの苦労を肌で体感した。実際に自分たちが農業を体験したことで、農業が身近に感じられるようになった子どもたちも多い。しかし近くに海や漁港、魚市場などのない川崎では、水産業は子どもたちにとって遠い存在となっている。

②めざす子どもの姿

水産業が子どもたちにとって遠い存在であると考え、本単元では家庭でも気軽に食べられており、給食にもメニューとして登場するさんまを取り上げる。また、「魚は釣る、網でとる」などのおおまかなイメージしかもてていない児童も多く見られる。実際に見学をしたり、漁業に携わる人の話を直接うかがったりすることができないので、写真や映像などの資料を効果的に使用し、魚の習性を利用して漁をしていることや魚の種類によって漁法が異なることなどの漁業に携わる人の工夫や努力に迫っていきたい。

本単元では、水産業に携わる人々の工夫や努力、水産業が加工や運輸など様々な仕事とかかわ

り合っていることに気づかせるだけでなく、日本の水産業の現状や課題について理解することも大きなねらいの一つである。とる漁業に従事する人々、育てる漁業に従事する人々、海の資源のために自然を守ろうとする人々と、水産業に携わる様々な人々の思いや願いに迫り、今後の日本の水産業のあり方について考えていけるようにしたい。また、水産業と自然環境とのつながりについて考え、環境を守っていくことの大切さや自分たちにはどのようなことができるのかを考えていく態度を育てていきたい。

(2) 単元設定の理由

本単元では、私たちの食生活に密接なかかわりをもつ水産業について学習する。日本は周囲が海に囲まれており、水産業は重要な産業である。また、日本人は他の国に比べて魚を多く食べており、子どもたちも食卓にのる魚の名前は知っている。しかし、その生息地や捕り方、どのような人が関わっているのかについてまではよくわかっていない。水産業の学習が子どもたちにとって身近なものと感じられるように学習を進めていきたい。

水産業は、食料資源の確保や自然環境のかかわりなどの観点から様々な問題を抱えている。例えば、200海里規制による漁場の制限や捕りすぎによる水産資源の減少などがある。また、労働条件や労働環境の厳しさ、危険性、将来性や雇用の不安などの理由から、漁業で働く人が減少している。

さらに、日本の水産物の消費量・輸入量はともに世界一となっており、その動向は世界に大きな影響を与えている。こうした海外からの輸入等の問題を通して、子どもたちは日本全体、あるいは世界との関わりからみた食糧という点にまで目を向けていくことができる。

こうした様々な問題を抱える中、環境や資源の保護を考えた「守り育てる漁業」が行われるようになってきている。人々が食料を安心して食べられるように、色々な取り組みが行われていることについても学んでいけると考える。

また、水産業についての写真やグラフを通して、わが国の水産業の意味や自然環境とのバランスについて考えることができる教材でもある。こうした写真やグラフから問題を発見する力は、次学年からの歴史学習においても必要とされると考える。

本単元の学習を通して、簡単に手に入れることができなくなってきた食料を確保するために、様々な人が努力していることに気づかせたい。また、魚の新鮮さを保たせて消費者に届ける工夫や資源を守り育てる取り組みをしている人々について学んでいく中で、普段食卓にのぼる魚を目にしたときに、それにかかわる人のことを思いうかべるようになってほしい。

6. 研究テーマとの関わり

「コンピュータやデジタルカメラ、教材提示装置、ワイヤレスペンタブレット、ビデオプレーヤーなどといったICTは、教室に常設された大型のデジタルテレビとつながることによって、映し出す内容を簡単に大画面で扱えるようになる。このことが、従来の授業方法と適切に組み合わせられると、より『わかる・楽しい』授業づくりができる。」

川崎市立小学校情報教教育研究会は上記の内容を平成22年度の研究会総会で唱え、以後3年間にわたって大切な考え方の一つとしながら、次のような研究テーマの中でICT活用に関する授業研究を進めてきた。

今回の取り組みでは、以下の点を意識しながら学習指導案を作成した。

研究テーマ

「自ら学ぶ力と豊かな心を育てる情報教育をめざして」

－ メディア活用で育てる情報活用能力、メディア活用で伸ばす確かな学力 －

- 「メディア活用で伸ばす確かな学力」の要素に重点を置く。
- 扱うメディアの中心を教科指導におけるICTに置く。
- 日頃の授業づくりに役立つような内容を提案する。

日常生活の中で、海や漁港、魚市場などがあまり身近ではない川崎の子どもたちにとって、水産業は感覚的に遠い存在である。本単元で目指していることは、教師がICTを「有効、適切に」活用して授業を行うことで、そうした子どもたちが、水産業に関する諸々の事象について具体的なイメ

ージを持てるようになること。そして、興味や関心などを高めながら水産業のさかんな地域の特色や人々の工夫や努力、悩みをとらえ、日本の水産業の現状と課題を理解できるようになることである。

特に資料の提示に関して、「ICTを活用する場面」と「ICTを活用しない場面」を組み合わせた授業づくりがいかに行えるか、が大きなポイントとなるであろう。

- 資料を提示する目的（ふりかえる、学習問題をとらえる・深める・広げる・まとめる など）
- 資料を提示するタイミング（どの段階で見せるか）や発話（発問や指示）
- どんな資料を提示するのか（実物、静止画、動画など）
- どのように提示するのか（実際に触れさせる、比較させる、共通点を見つけさせる、部分的に見せる、全体を見せる、くりかえす など）

といった観点から、社会科の指導においてICTを「有効、適切に」活用できたかを検証し、以下の手だてが本時の目標を達成するために効果的であったかを検証していきたい。

- 「北海道沖」の書き込みがある発泡スチロールとさんまの実物を提示し、直接触れさせることで興味・関心を引き出した後、さんま漁の写真を部分的に大画面で提示してポイントを読み取らせる。
- 特徴的な漁法についての動画を視聴させる際に、漁法だけでなく人の動き（漁師が仲間に指示を出しているところなど）にも注目させ、さんまをたくさんとるための工夫について様々な面から気づかせる。
- 釧路漁協の方からいただいたメールを紹介し、水産業に携わる人々の工夫だけでなく、苦労や努力についても考えられるようにする。
- 教室で日常的にICTを活用する環境整備を行う。

7. 学習指導計画

単元の流れと児童の反応	・支援 【】 評価 ☆使用する ICT
<p>① 魚はどこで？</p> <p>○教科書に載っているそれぞれの水産物に名前を書き入れる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">魚はどんなところで多くとれるのだろう。</p> <p>○水揚げの多い漁港はどのあたりに多く見られるのか資料から読み取る。</p> <p>○暖流や寒流などの海流ととれる水産物の量や種類の関係について考える。</p> <p>○水産業のさかんな地域の条件を考える。</p> <p>② 新鮮なさんまを食卓へ(本時)</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本時の目標</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">さんま漁の仕事の様子を理解し、さんま漁に携わる人々の工夫や努力に気づくことができるようにする。</p>	<p>・魚の名称の正解・不正解だけでなく、感想や疑問を引き出し、水産物への関心を持たせる。</p> <p>☆50 インチテレビ、拡大提示装置 ワイヤレスペンタブレット</p> <p>【関】自分が食べている水産物がどこで、どのようにしてとられているのか関心をもって調べようとしている。</p>
<p>○発泡スチロールの中にはどんな水産物が入っているか考える。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">ICT活用のねらい</p> <p>☆50 インチテレビ、拡大提示装置、ワイヤレスペンタブレット</p> <p>さんま漁の写真を拡大提示し、写真から必要な情報を読み取れるようにする。一度の漁で水揚げされるさんまの量を児童が想像しやすい別のものに置き換えてテレビに映す。</p> <p>○さんま漁の写真からわかったことを発表する。</p>	<p>・手触りやにおいから水産物を予想させる。</p> <p>・発泡スチロールに書かれている「北海道沖」の文字に注目させ、北海道でとられた水産物であることを確認する。</p> <p>・資料を使って、北海道では多くのさんまが水揚げされることを確認する。</p> <p>・トラックに積まれたさんまは一度の漁で水揚げされたことを説明</p>

し、なぜ一度にこんなにたくさんとれるのか疑問をもてるようにする。

一度にたくさんのおさんまをとるためにどのような工夫をしているのだろう。

- 予想を話し合う。
- さんま漁の絵からわかることを発表する。

ICT活用のねらい

☆50インチテレビ、拡大提示装置、ワイヤレスペンタブレット
さんまの棒受け網漁の絵を拡大提示し、要点を拡大したり、書き込みをしたりする。

- さんまの棒受け網漁の映像を見て、さんま漁をしている人の工夫をまとめる。

ICT活用のねらい

☆50インチテレビ、DVDプレーヤー
さんまの棒受け網漁の映像を要点となる部分で一時停止したり、児童から出た考えに観点を絞ったりしてもう一度視聴する。

- 釧路漁協の畠山さんからのメールを読み、本時の振り返りを書く。

ICT活用のねらい

☆50インチテレビ
メールの内容だけでなく畠山さんの顔写真も提示し、児童にとって身近な存在となるようにする。

③ 漁業の基地をたずねて

- 根室港の様子を写真から読み取る。

漁港や魚市場はどのような様子なのだろう。

- 資料から魚市場や漁港の様子についてわかることをまとめる。
- 前時に見た映像の続きを見て、せりや市場の様子や輸送の工夫を読み取る。
- 加工工場で働く人の工夫や努力を調べる。

④ さんまのゆくえ

- 根室でとれたさんまがどのようにして自分たちの食卓に届くのか予想する。

根室のさんまはどうやって私たちの食卓に届くのだろう。

- さんまがどのようにして運ばれているのかを資料から読み取る。
- それぞれの輸送手段のよさを考える。

⑤ 世界のなかの日本の漁業

- 漁業別の生産量のグラフから変化を読み取る。

どうして漁業生産量が減ってきたのだろう。

- ・グループに1枚さんま漁の絵を配付する。グループで意見を出し合うことでどの児童も考えがもてるようにする。

- ・「さんまをたくさんとるための工夫」に見る観点を絞って、キーワードで箇条書きさせていく。児童から出たキーワードを中心に2回目の視聴を行い、最後にキーワードをつかって自分の言葉でまとめる。

- ・漁師の人の工夫だけでなく、苦労や努力についても考えることができるようにする。

【思】さんま漁に携わる人々の工夫を理解し、自分の言葉で表現している。

- ・根室と川崎の業種別就業者の割合と比較し、根室では多くの人が漁業に携わっていることに気付かせる。

【思】さんまが出荷されるまでには様々な仕事があり、それぞれに工夫や努力があることを考えている。

☆50インチテレビ、DVDプレーヤー

- ・地図帳を使って、根室から川崎までの距離を確認させ、交通手段を考えさせる。

【技】写真や資料からさんまの輸送の交通手段や日数、移動距離など観点を整理して読み取っている。

【思】輸送には様々な方法があり、産地と消費者を結ぶ働きについて考えている。

☆50インチテレビ、拡大提示装置
ワイヤレスペンタブレット

- 漁業生産量が減ってきた理由を予想する。
- 200 海里経済水域と漁業で働く人の変化の資料を読み取り、漁業生産量が減ってきた理由をまとめる。
- 漁業に携わる人たちの悩みや願いを知る。

⑥ 未来につながる漁業

- 岩手県宮古市の位置を地図帳で確認し、写真から宮古市の様子を読み取る。
- 養殖カレンダーと養殖わかめの生産量のグラフを読み取り、気づいたことをノートにまとめる。
- 教科書を読み、宮古市でわかめやこんぶの養殖が盛んな理由を考える。

養殖漁業の様子や働く人々の思いほどのようなものだろう。

- 漁師の佐々木さんの話から、漁師の仕事の工夫や努力を読み取り、仕事にかける願いを考える。

⑦ 水産資源を守るために

- サケについて知っていることをノートに書く。
 - ・生まれた川に戻ってくる
 - ・さんまにも光に集まる習性があったね
 - ・サケの卵はイクラだ
- 写真と資料からサケの栽培漁業がどのような仕事なのか調べる。

水産資源を守るためにどんな工夫や努力をしているのだろう。

- ふ化場で働く人の工夫を資料から読み取る。
- これからの水産業について自分の考えをまとめる。

⑧ 森は海の恋人

- 森で植樹する写真を見せながら、森は海の恋人という活動名から考えたことを発表する。

漁師の畠山さんが、なぜ山に木を植えているのだろう

- 漁師の畠山さんが、なぜ山に木を植えるのか予想する。
- 畠山さんの話から活動の様子や植樹を始めた理由を調べる。
- 畠山さんが「森は海の恋人」という言葉に込めた思いについて考える。

【技】 グラフを正確に読み取り、漁業の生産量が変化してきた理由を教科書の記述とグラフを関連づけて考えている。

【知】 漁業に携わる人に多くの悩みや願いがあることに気づき、日本の水産業の現状と課題を理解している。

☆50 インチテレビ、拡大提示装置
ワイヤレスペンタブレット

- ・稲作で取り上げた南魚沼市と比較させ、宮古市の地形に着目させる。
- 【関】 守り育てる漁業に関心を持ち、わかめや昆布の養殖の仕事について進んで調べようとしている。
- ・わかめやこんぶの生育は地形や栄養分など、取り巻く自然環境が深く関わっていることをおさえる。
- 【思】 漁師の人が自然環境を守り、思いを込めて育て、よりよい味を求める工夫や努力について自分の言葉で適切に表現している。

- ・さんまの習性を思い出させながら、身近な話題としてサケについて知っていることを引き出す。
- 【知】 養殖漁業や栽培漁業の課題を手がかりに水産業が抱える問題について理解している。

- ・写真からなぜ漁師の人が森で植樹するのかという疑問がもてるようにする。

☆50 インチテレビ、拡大提示装置
ワイヤレスペンタブレット

- 【関】 畠山さんの植樹活動の意味を森と川と海の間を関係性を考えながら、関心をもって調べている。
- ・畠山さんの話と森と海の関係図から、森や海を守ることは水産資源を守ることであるという関係性に気づかせる。

8. 実践を振り返って 成果と課題

今回の実践では、「メディア活用で伸ばす確かな学力」の要素に重点を置いて授業を展開した。5年生の社会科「水産業のさかんな地域をたずねて」では、教科書に漁の様子が描かれた図が載っており、漁のポイントとなるライトや網などのたくさんの情報が詰まっていた。しかし、その図だけでは漁の様子がイメージしにくいいため、釧路の漁業協同組合から映像資料を取り寄せ、メインの教材として扱った。しかし、動画資料は、どうしても情報量が多くなってしまったため、抜粋して使用した。その時に、大切な部分で一時停止をしたり、繰り返して視聴したりした。このように、使用する場面を事前に決めておくことでねらいが明確になり、子どもたちの理解がより確かなものとなったように感じた。そして、今回はさんま漁の動画資料だけでなく、実際に連絡をとった釧路漁業組合の方の写真も静止画資料として使用した。身近に海や漁港のない川崎の子どもたちにとって、水産業は遠い存在である。そのため、水産業に携わる人々の工夫や努力に迫る際に重要な資料となる教科書に掲載された漁師の方の話も非常に遠い存在の話になってしまうと考えた。そこで、実際に教師が連絡を取り合っている様子やその方の写真を資料として提示することで、水産業に携わる人々との距離を少し縮めることができたように感じた。また、実際にいただいたメールの文章を読むことで、教科書の漁師の方の話よりも身近に感じることもできたようにも感じた。授業の中で資料を提示する際には、表やグラフの読み取りが苦手な児童のため教材提示装置の様々な機能を利用し、画面の半分だけを隠したり、画面に書き込んだりした。その結果、苦手意識をもつ子どもたちも興味・関心が高まるのを感じることができた。

学習指導要領の中で「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し」という部分があるが、多くの ICT 機器や教材を使用した今回の授業と照らし合わせると、教師が主導になりすぎた部分も多かった。単元を通してこの方法をとってしまうと、子どもたちに学習指導要領が求めている力は育てることができない。今回は教師が漁業協同組合と連絡をとったが、広い視野、長期的な目で見ると教師ではなく、子どもたち自身が主体的に動き出す姿勢を育てていきたい。

今回の実践を通して、改めて映像資料を使用する場面と狙いを明確にすることの必要性を感じた。今後も子どもたちの実態や身につけさせたい事柄を考慮しながら、効果的に映像資料や ICT 機器を活用していきたい。



第6学年4組 国語科学習指導案

指導者 宮崎台小学校 高橋 恵

1. 日時・場所 平成24年7月4日(水) 13:30～ 6年4組
2. 単元名 私の主張 ～平和について考える～
3. 単元目標
 - ・意見を明確に伝えるために図書資料を活用して友だちと情報を交換し合い、平和に関する自分の考えを広げたり深めたりする。
 - ・自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えて意見文を書く。
 - ・話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで平和に関する意見を主張する。
4. 評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	話す・聞く能力	言語についての 知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを明確に表現しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理している。 ・「事実」と自分の感想、意見などを区別して書いている。 ・引用して、自分の考えが伝わるように書いている。 ・文章全体の構成の効果を考えて文章に書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫して話している。 ・場に応じた適切な言葉遣いで意見を主張している。 ・話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして、考えをまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読んでいる。 ・話し言葉と書き言葉との違いに気付いている。

5. 単元について

(1) 児童の実態と目指す子ども像について

① 児童の実態

読書好きな子が多く、学校図書館に熱心に通ったり、ブックトークなどで紹介した本を教室に置いておくとしたりする。「最近夢中になっていること」をテーマにスピーチをしたときには、「読書」を挙げる子が多かった。叙述をもとに登場人物の気持ちを読み取ったり、場面の様子を感じ取ったりでき、4月の「カレーライス」の学習では登場人物の感情の変化に注目して読むことができた。

また、自分の考えや思いを表現・発表することが好きな児童も多い。自分の考えや思いを、これまでの経験や知識をもとに書いたり話したりすることを5年生から行ってきている。新聞の記事や本を紹介した後に、筆者の伝えたいこととそれに対する自分の考え(意見文)を書く時間を設けたこともある。文章の要旨やキーワードを見つけ出すことは、何度か経験を積んで、少しずつできるようになってきた。

5月の「学級討論会をしよう」の学習では、「説得力のある主張」をするためには「根拠」が必要だということを学習した。説得するために、子どもたちは図書資料やインターネット、インタビューなどを通して情報を集めた。その情報から大切な部分を取り出して討論会に臨むことができた。これまで自分の経験や知識だけに頼っていた部分を図書資料やインターネットなどを用いたことで、考えに深まりが出るようになってきている。

② 目指す子どもの姿

子どもたちにとって「戦争」は歴史の中の過去のもので、身近なこととしてほとんど考えることのない出来事になりがちである。今回は、教科書の資料「平和のとりでを築く」を通して過去の出来事を知り、さらに「平和」について自分の意見をもつことで、「平和」ということが身近なこととして考えられるようにさせたい。

今回の学習では、意見文を書くために図書資料を活用していくが、自分の意見を代弁したり肉付けしたりできるような図書資料を探し出せるようになってほしい。そのために、自分の求める情報を題名、目次、索引などから見当をつけて見つけられるように指導していく。図書資料に出会う中で、当初自分の求めていた仮の要旨とは異なる情報を見つかることもあると思う。そうなった場合には、仮の要旨と選書のめあてに立ち戻りながら図書資料や情報を選んでいくことが大切になってくる。また、多くの情報に触れる中で得られた情報によって、仮の要旨をさらに深めてほしい。

また、図書資料を友だちと紹介し合い、情報を広げたり深めたりすることを通して、自分の意見をより多角的な方面から考えたり、対立する意見も意識しながら具体的な資料をよりどころにして相手に自分の考えを効果的に話したりできる子を育てていきたい。さらに、意見を文章で書くときには、調べた情報を羅列していくのではなく、文章全体の構成を考えながら事実と自分の考えを区別して文章を書けるように指導していく。

(2) 単元設定の理由

この単元は、「平和」についての意見文を書くことと、スピーチで主張をするという二つの言語活動を行う。そして、ねらいに迫るために、図書を活用していく。

自分の意見をもつためには、まず課題設定が大切である。ここでの課題は、自分の経験に基づいて考えたものに加えて、「平和のとりでを築く」を読んでさらに調べたいと思って設定したり、友だちと考えを交流し合ったりすることで設定する。

意見文を書くにあたっては、自分が伝えたいことに、より説得力をもたせる資料を探す。じっくり読んで、自分に必要かどうか考えることや、何度でも手にとって読み返すことのできる図書のよさを生かして活動させたいと思う。その際には、学校図書館のものに加えて、宮前図書館からも団体貸し出しを行い、子どもに合った様々な資料を用意することにした。そして、事前に、できるだけ子どもたちの思いにそった配架をしておきたい。その配架の見取り図を用意し、資料をさがす支援のひとつにする。

しかし、「平和」をキーワードにした膨大な情報量の中から、自分の意見に必要なとする事例や資料を見つけ出すことは容易ではない。一番大切なことは、自分が欲しい資料はどんなものなのかという目的意識を明確に持つことだと思う。資料にあたる前に、キーワードをしっかりと考えさせておきたい。

さらには、調べ学習の導入で、教師がブックトークを行うことで、それぞれのコーナーにどんな本があるのかを知らせ、資料を探す手掛かりをもたせることにする。また、本の題名だけでなく、目次やまえがき、索引や肩見出しなどの使い方を理解して資料にあたるようにすることも、大切なことだ。そして、探し出した本は、資料カードに簡単にメモすることと、その本のページに付箋をつけておくことで、再びその図書がすぐに手にしやすいようにしておく。資料カードは、意見文を書く時には、取捨選択したり、構成を考えたりすることにも利用することができる。加えて、友だちとの情報交換を行うことでも、さらに多角的に図書にあたることができるようにと考えてみた。そうやって調べていく中で、自分の考えが明らかになることを体験させたいと思う。

スピーチにおいては、集めた資料を提示しながら、聞き手に納得させることをねらいにしたい。単に書き言葉を話し言葉に直すだけではなく、話し言葉は発せられた途端に消えていき遡って内容を確認することができないことや、複雑な構文や誤解されやすい同音意義語を避けることなど、音声言語の様々な表現上の特質を理解させて活動にあたらせたい。

意見文を書いて意見文集にまとめたところで夏休みを迎える。子どもたちは終戦記念日を前後して様々な情報をテレビや新聞などで目にするだろう。また、長い休みを利用して平和にゆかりのある土地への旅行をする家庭もあるだろう。それらの経験をいかしながら、「平和」を更に自分の身近なこととして感じてスピーチ大会に臨むことができるように願っている。

6. 研究テーマとの関わり

研究テーマ

「自ら学ぶ力と豊かな心を育てる情報教育をめざして」
- メディア活用で育てる情報活用能力、メディア活用で伸ばす確かな学力 -

「子どもたちの『情報活用能力』を育成するためには、子どもたち自身が様々なメディアの特性を生かしながら適切に活用して問題解決に取り組む学習活動の充実が大切である。」川崎市立小学校情報教育研究会ではこのような考えのもと、上記の研究テーマを掲げ、数年来、授業研究を進めてきた。

今回の取り組みでは、

- 「メディア活用で伸ばす確かな学力」の要素に重点を置く。
- 扱うメディアの中心を図書資料におく。
- 日頃の授業づくりに役立つような内容を提案する。

といった点を意識しながら学習指導案を作成した。

最高学年である高橋級の子どもたちは、これまでに図書やインターネットでの検索、インタビュー等の取材活動などの経験を重ね、自分の考えを広げたり深めたりする体験をしてきている。また、教師のブックトークを聴いたり、学校図書館へ熱心に通ったりと日常的に読書に親しんでいる。

本単元では、子どもたちが図書メディアを活用して自分の意見の正当性を確認し、さらに深まりや広がりを与えてくれる図書資料を探し出すことを通して、「平和」についての意見文を書けるようになることを目指している。そのためには、「自分の意見に説得力をもたせられる資料」を、たくさん本の中から見つけ出し、意見文の作成に生かすことが重要な活動となるだろう。何度も手に取ってじっくりと読み返すことのできる図書の良さを生かし、説得力のある内容をもった意見文を書くための資料を集められるような調べ活動となるようにしたい。

本実践では以下のような具体的な手だてを講じている。

- 学校図書館に加えて、市立宮前図書館からも図書の団体貸し出しを行い、子どもに合った様々な資料を用意する。

- 表紙から受ける印象を大事にして、本を並べておくようにする。
 - 配架の見取り図を用意し、子どもが資料を探す際の支援のひとつにする。
 - 子ども自身が立てた「仮の要旨」から導き出したキーワードを、子どもにしっかりと意識させる。
 - 子どもの求める情報を題名、目次、索引などから見当をつけて見つけられるように指導する。
 - 調べ学習の導入で教師がブックトークを行うことで、それぞれのコーナーにどんな本があるのかを子どもに知らせ、資料を探す手掛かりをもたせる。
 - 探し出した本は、資料カードに簡単にメモすることと、その本のページにクラス毎に色を決めた付箋をつけておくことを子どもに指導することで、学年全体で活動を行っても再びその図書がすぐに手にしやすいようにしておく。
- 子どもたちにとって身近な情報メディアである図書を、どのように活用させ、教科の目標を達成させていくのかについて、指導計画とその手だてが有効であったかを検証していこうと考えている。

7. 学習指導計画（15時間） 本時第4時

次	時	評価規準と評価方法	主な学習活動	指導上の留意点
一	1		資料「平和のとりでを築く」を読み、自分の考えをもとう。	
	2	<p>【関】自分の考えを明確に表現しようとしている。 ☆発言、ノート</p> <p>【関】自分の考えを明確に表現しようとしている。 ☆発言、ノート</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「平和」からイメージすることを交流する。 ・「平和のとりでを築く」を読み、初発の感想を書く。 ・友だちの初発の感想を読み合う。 ・心の中に平和のとりでを築く、とはどういうことなのかを話し合い、自分なりの考えを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科や今までの学習、読書体験や新聞などで得た情報なども、思いつくままに出し合うことで、これからの学習に対する意欲がもてるようにする。 ・一覧にして読み合いやすいようにしておく。 ・平和を壊す戦争や争いを引き起こす人間の心を、身近な事例をもとにしながら考えさせる。 ・友だちの意見も生かしながら「平和を守るための心」に気付かせる。
二	3		自分の考えを確かにするために調べて、意見文を書こう。	
	④ 本時	<p>【関】自分の考えを明確に表現しようとしている。 ☆発言・ノート</p> <p>【書】考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集している。 ☆態度・資料カード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「仮の要旨」を書く。 ・グループで「仮の要旨」を聞き合い、意見を交流する。 ・意見文の例を読み、意見文を書くためのポイントを知る。 ・「仮の要旨」を見直し、説得力をもたせるための資料に、どんなテーマの内容の本が欲しいかを考える。 1. 自分の「仮の要旨」と欲しい図書資料のキーワードを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「平和」について最も訴えたり、伝えたいことを考えるようにする。 ・友だちの意見を聞くことで、自分の「仮の要旨」を確かめられるようにする。 ○意見文のポイント <ul style="list-style-type: none"> ※読み手に理解されやすくするために、実際にあったことや、それらの記録（具体例や引用など）と、自分の考えを区別して書くこと。 ※異なる考えや反論を取り上げ、それに対する自分の考えも入れると説得力が増す。をおさえる。 ・自分が必要とする資料を探すためのキーワードをはっきり持つことが、次時からの資料集めの大事な鍵となるので、しっかり考えさせる。 ・「仮の要旨」に説得力をもたせるために、どんな資料がほしいのかを明確にするようにしたい。
			自分の意見に説得力をもたせるための資料を、読んだり調べたりして集めよう。	

	<p>5 6 7</p> <p>【書】目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理している。 ☆ノート</p>	<p>2. ブックトークを聞いて、どんな図書資料がどこにあるのかを知る。</p> <p>3. 資料を読んで探す。</p> <p>4. 必要な資料を手にするまでの方法について情報交換する。・「仮の要旨」に、説得力をもたせる具体例や資料を集める。</p> <p>・資料探しの続きをする。 ・おすすめの本を紹介しあったり、情報を交換しあったりする。 ・「仮の要旨」を修正し、要旨を確定する。 ・基本的な意見文の構成を理解する。 ・自分の意見が効果的に伝わる文章構成を考える。</p>	<p>・コーナーごとの本を紹介することで、自分の「仮の要旨」にふさわしい本を見つける見当がつけられるようにする。 ・ショックをうけないように、写真集は、残虐なものもあることを知らせておく。 ・手にした本は元の場所に戻すことを確認して、コーナーの維持をはかる。 ・必要な本をみつけたら、資料カードに題名とページ、配架場所をメモし、クラスカラーの付箋に記名して本のページに付けることで、後で手にしやすくすることを伝える。 ・表紙から受ける印象を大事にして、本を並べておくようにする。 ・「仮の要旨」とキーワードが書いてあるノートを持って活動することで、一人ひとりを見とって声をかけていく。 ・必要に応じて、本の目次や肩見出し、索引の使い方を指導して、資料を見つける手助けをする。 ・「仮の要旨」を考え直すことも認める。 ・欲しい資料にたどりついた子どもを取り上げて、その資料を探し出した手順を紹介してもらい、資料の探し方を共有できるようにする。 ・「自分がいちばん訴えたいこと」と、「仮の要旨」の内容を常に意識し、適切な例や資料であるかを考えさせる。 ・これまでに学習してきた文章の型(頭括型、双括型、尾括型)を思い出し、どこに筆者の主張が書かれていたかを思い出させる。 ・段落のつながりを考えながら、文章全体の構成を考えるようにする。 ・資料から引用する時には、出典を明らかにし、必要なところだけを選ぶことや、自分の考えと区別して書くことを確認する。 ・考えの一貫性とそれを支える事実や事例を引用しているかどうか確認する。 ・書き上がったら校正し、清書して、クラスの意見文集にまとめる。</p>
<p>8 9 10</p>	<p>【書】文章全体の構成の効果を考えて文章に書いている。 【書】「事実」と自分の感想、意見などを区別して書いている。 【書】引用して、自分の考えが伝わるように書いている。 ☆ワークシート・ノート</p>	<p>・各段落を具体的に記述し、意見文を完成させる。</p>	

三	11	意見を効果的に主張するスピーチをしよう。	
		<p>【言】話し言葉と書き言葉との違いに気付いている。 ☆発言・ノート</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・書き言葉と話し言葉の違いを考える。 ・スピーチ原稿の例を読み、意見が明確に伝わるスピーチのポイントを知る。 ・自分の意見文を読み返し、自分のスピーチに取り入れるところを考える。
	12	<p>【話・聞】事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫して話している。 ☆スピーチ原稿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を効果的に伝えるスピーチをするために必要な準備を知る。 ・実際に話すつもりでスピーチすることを書く。
	13	<p>【話・聞】場に応じた適切な言葉遣いで意見を主張している。 ☆発言・スピーチメモ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチ例の CD を聞き、話し方の工夫について考える。 ・考えたことをグループで報告しあい、スピーチで大切なことをまとめる。 ・スピーチメモを作る。
	14	<p>【話・聞】場に応じた適切な言葉遣いで意見を主張している。 ☆スピーチ・助言カード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・二人組でスピーチの練習をする。 ・グループでスピーチ練習をする。
15	<p>【話・聞】話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして、考えをまとめている。 ☆スピーチ・振り返りカード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチ大会をする。 <p>話し手</p> <ul style="list-style-type: none"> ※声の大きさ、速さ ※声の強弱・高さ・間の取り方 ※姿勢、視線 ※資料の見せ方 <p>聞き手</p> <ul style="list-style-type: none"> ※内容について・・・話し手の意見は自分の意見と比べてどうか。 ※技術・・・効果的な話し方だったか。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分のスピーチを振り返る。 	

8. 研究の成果と課題

① 成果

日頃、疑問は“すぐにインターネット検索で解決”の方向が見られる子どもたち。そのような子どもたちにたくさんの活字に触れさせ、図書資料のよさを知ってほしいという思いをもった。しかし、多くの図書資料を集めてはみたが、どうしたら子どもたちが「この本を使いたい！」と思えるような提示ができるかと、頭を悩ませた。

今回の学習では、子どもたちは資料探しをする前に自分の「仮の要旨」を定め、いち早く必要な情報がほしいという気持ちが高まっていた。その気持ちに応えたいと試行錯誤した結果、ブックトークを通していろいろなジャンルの本が用意されているということを子どもたちには伝えた。膨大な数の図書資料を目の前にして、「必要な情報が見つかるかな。」と不安げな様子も見受けられたが、多くの子は“特設平和図書室”に入った瞬間目を輝かせ、早く手に取りたいという様子を見せた。さらに、ブックトークを行ったことによってどこにどのような資料があるかがわかり、資料探しが始まると自分の仮の要旨に沿うようなコーナーに向かう子が多く見られた。意欲的に資料探しをする子が多かった。また、目次や索引などを手がかりにすると求めている情報が見つかりやすいということもわかり、利用している姿もあった。本時の学習の終わりには、自分に必要な資料に出会えた子に「自分の仮の要旨、どんな情報がほしかったか、見つけた本についての説明」をしてもらった。情報を共有することで、まだ見つけられていない子への支援にもなったように思える。

必要な情報が手に入ったことで、意見文を書く作業もスムーズに進んでいった。手にした図書資料を全て使うのではなく、自分の考えを補足することのできる情報を選んで書く様子が見られた。自分の考えを補ってくれる資料があることによって、自信をもって意見文を書けたようだ。意見文を書いた後に行ったスピーチでは、夏休み中の見聞や体験を通して得た知識を利用する子が多かった。自分なりに平和について考えることができた証だと思う。

調べる手段が様々ある中で、図書資料のみに絞って調べ学習を行ったことは、子ども達にとっても新鮮な経験であった。また、子どもたちは図書資料が何度も見返せ、比較でき、子ども向けに編集されている等のよさを知ることができたので、これからも図書資料のよさを広め有効活用していきたいと思う。

② 課題

今後の課題として「読書環境の整備」が挙げられる。集めた図書資料を学年でどう利用するか、どのように配架すればよいかというのは大変悩んだところである。分類別であるならば学校図書館に行けばよいという話にもなった。空き教室を利用した特設の学習コーナーを設置するよさや有効的な活用方法等いろいろ悩んだ末、今回は子どもたちが使いやすいようにと考え、子どもたちの出した「仮の要旨」に沿った配架にした。しかし、「仮の要旨」に沿った配架にするためには、教師も本を知っておく必要がある。題名や目次などからその本が何について書かれているか把握することが重要となる。中には、2つ以上のジャンルにまたがって書かれている本もある。それらは、子どもが資料選びに困ったときに、教師が言葉でアドバイスするために知っておかなければならない情報であると感じた。これから先、同じように学習をしようとしたとき、配架は頭を悩ませる部分であると思った。

また、「図書資料の活用を広めるにはどうしたらよいか。」ということも課題である。今回は数多くの図書資料に触れさせ、自分の必要とする情報を見つけてほしいと願い、学校図書館だけではなく市立図書館の協力も得て200冊近くの図書資料を用意した。しかし、多くの資料を用意してはみたものの、それだけでは子どもが自身で必要な図書資料を見つけ出すのは困難である。教師用・児童用のパスファインダー（あるテーマに関する資料や情報を探すための手順を簡単にまとめたもの）を導入してみてもどうかという案も出た。今回は手立てが多く、子どもたちが使いきれないだろうと考えパスファインダーの導入を諦めたが、今後有効活用できると図書資料の活用に広がりが出ると思った。

もう一つ大切なことは、今回挙げた様々な手立てを「日常的に行い、本に親しむ」ことである。今回は子どもと本とを初めてブックトークという形で出会わせた。子ども達は様々な図書資料があると知ることができたが、教師側は本の選び方、冊数、台本の組み立て方等勉強が必要だと感じた。学習外・他教科でも積極的に取り入れ活用していくことで、より本に親しむことができるのではないかと考える。

調べ学習の手段として、情報量が多く新しい情報がすぐに手に入るインターネットや、生の声が聞けるインタビューなども有効な手段ではあるが、これまで述べた図書資料のよさを子ども達に示し、日常の中で意識的に取り入れていくことが大切だと感じた。日々の生活の中で多くの図書資料に触れさせていくことで、疑問をもったとき「本で調べれば何かがわかる。」と、図書資料も調べ学習で有効な手段であることや、本が好きだと感じてほしいと思った。

(2) 「情報活用能力」をテーマにした研究授業

第1学年 国語科学習指導案

指導者 川崎市立真福寺小学校 武川 恭子

1. 日時・場所 平成24年11月21日(水) 5校時 1年1組

2. 単元名 じどう車ずかんをつくろう

3. 単元目標

- ・いろいろな自動車について情報を得るために、自動車の「しごと」と「つくり」を説明した本や文章を選んで読もうとする。
- ・自動車についての情報を得るために、自動車の「しごと」と「つくり」がわかる文章を見付けながら読むことができる。
- ・主語と述語との関係に注意しながら文と文章を読むことができる。

4. 評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・いろいろな自動車について情報を得るために、自動車の「しごと」と「つくり」を説明した本や文章を選んで読もうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車についての情報を得るために、自動車の「しごと」と「つくり」がわかる文章を見付けながら読んでいる。〈イ〉 ・自動車の「しごと」と「つくり」について説明する文や文章を、絵や写真などを参考にしながら書いている。〈イ〉 	<ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語との関係に注意して文や文章を読んでいる。〈イ(カ)〉

5. 単元について

(1)児童の実態と目指す子ども像について

①児童の実態

小学校生活を始めてから8か月ほど経った子どもたちは、周囲との関わりが広がり、周りの友達と一緒に活動する楽しさも感じ始めている。学習全体を通して、「知っていることを教えたい」「みんなの前で言いたい」という気持ちがある一方で、コミュニケーションの対象が教師であることが多く、「友達に伝える」という意識はまだまだ多くないようだ。また、生活経験の違いから、語彙の量やイメージ力については個人差が大きい。

そこで、「おはなしきいて」の「お気に入りのものを教えるね」のスピーチを学習した際には、実物や写真を示しながら話をする中で、伝えたいことを補うことができたり、子ども同士でイメージを共有できたり、スピーチ後のやりとりが広がった。さらに、質問はもちろんのこと、「私は・・・です」と自分と比べて聞くことができた。週1回の朝読書の時間には、担任やボランティアさんが読みきかせを行い、みんなで本に親しんできた。一人読みの時間には、絵本の絵を見て楽しむ子、文字をじっくり追ってお話を味わう子、昆虫などの生き物の本に興味がある子など、思い思いに読書を楽しむ様子が見られる。国語の「くちばし」や「みいつけた」の学習では、知っていることを話したり、教科書の挿絵を見ながら内容を確かめたりする学習を一緒に行ってきた。

②目指す子ども像

子どもたちにとって、自動車は身近なものであるが、「はたらく車」がどんな仕事をして、どのようなつくりになっているかを十分に捉えることは難しく、自動車への興味・関心の差も大きいと思われる。そこで、学習の見通しを持つ段階では、少しでも「はたらく車」に対して親しみを持てるように、事前に家庭から持ってきたミニカーや本などを手に取るような場を設けたり、動画を活用してイメージを持たせたりすることで、意欲的に学習に取り組めるようにしたい。

学習の中で、実際にはたらく車の実物を見ながら確かめることは難しい。そこで、動画や写真などを用いることで、はたらく車の高さや大きさ、動きなどについて具体的なイメージをもって感じ取ることができたり、言葉の意味を理解したりするのに役立つと考える。視覚的に理解を促しながら、「しごと」と「つくり」に着目できるようにする。また、得た情報について、「しごと」と「つくり」を分ける経験や、「しごと」と「つくり」を結びつけながらカードにまとめる経験を子ども

たちがすることで、「のりもの図鑑」をつくる学習にスムーズにつなげていきたい。

「じどう車ずかん」を作る活動では、自分で「はたらく車」を選ぶ。その際に、絵本や図鑑をどのように使っていくか、本の選び方を丁寧に確かめることで学習がスムーズに進められるようにしたい。絵本や図鑑などを用いる中で、活字からの情報と同時に写真や挿絵から気がつくことも大切に扱い、自分で見つける楽しさにも気づけるようにする。図書室にある本や図鑑などは、1年生にとって情報量が多すぎるものもあるので、図書室にある本以外にも、家庭から持ってきたものやのりものカードを併せて活用する。家庭で慣れ親しんだ本を学習に活用することで、学習後の家庭での読書にもつなげていきたい。またこの学習をきっかけにして、物語や絵本のほかに、知識を得るための本にも興味を持てるようにしたいと考えている。

(2) 単元設定の理由

本単元で学習する教材文「じどう車くらべ」は、それぞれの自動車がどんな「しごと」をしているか、そのためにどんな「つくり」になっているのかというように問いが二つあるため、二つの事柄の因果関係を挿絵とともに分かりやすく説明する形をとっている。活動を通してそれぞれの自動車の説明が「しごと」と「つくり」のまとまりからなっていることや「そのために」という言葉の役割に気づかせたい。

教材文の「しごと」と「つくり」を比べながら読み取ったあとに、自分で選んだ自動車について調べ、「じどう車ずかん」を作る。児童は周囲に聞いたり、絵本や図鑑、ミニカーを見たりして情報を集め、今までの学習したことを生かして、必要な情報を選びながら、書き写したり、書き換えたりして自分なりの表現をしていくことになる。いろいろな自動車の「しごと」と「つくり」について見つけ出す楽しさや、自動車カードを交換して読み合い、新しいことを知る喜びも味わうこともできる。教材で学習して文章を書くことや自分が知りたい知識を得るために本や文章を選んで読むことは読書の範囲を広げることは、繰り返し経験させたい言語活動である。計画的に積み重ねることによって、実際に使える力として獲得させていくようにしたい。

6. 指導計画 (11時間)

次	時	評価規準と評価方法	主な学習活動	指導上の留意点 使用するメディア及びねらい
1	1	【関】自動車に興味をもって発表し、意欲的に学習に取り組んでいる。 ☆発言・行動観察	○知っている自動車や調べた乗り物を紹介し合う。	<p>どんなじどう車があるかはなしあおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・50インチテレビ ・拡大提示装置 ・絵本や図鑑 ・ミニカー <p>☆ミニカーを拡大提示したり、絵本や図鑑を見たりすることで自動車について興味関心を高められるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで見たり乗ったりしたことのある自動車や絵本や図鑑で知っている自動車について話し合うようにする。 ・興味のある自動車については、絵本や図鑑、ミニカーなどを参考にして話ができるようにする。 ・自動車の名前がなかなか出てこない児童には、道路で走っている自動車や工事で使われている車を思い出すように声をかける。
	2		○いろいろな自動車の映像を視聴する。 ○「みんなで自動車図鑑を作ろう」という課題を設定し、	<ul style="list-style-type: none"> ・DVD ・DVDプレーヤー <p>☆いろいろな自動車の映像を視聴することで次時以降の学習の意欲を高められるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が実際に作る自動車図鑑の見

		学習の見通しをもつ。	本を用意し、これから学習していくことのイメージがわくようにする。
2		いろいろなじどう車のしごととつくりをみつけよう。	
3	<p>【言】主語や述語の関係に注意して文や文章を読んでいる。 ☆発言・色線</p> <p>【読】3種類の車の「しごと」や「つくり」を見つけながら読んでいる。 ☆発言・ワークシート</p>	<p>○バス・じょうよう車の「しごと」と「つくり」を読み取る。</p> <p>○「しごと」と「つくり」について説明した文に赤と青の線を引いて区別し、関係を確認する。</p> <p>○ワークシートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・50インチテレビ ・拡大提示装置 ・ミニカー <p>☆学習する車(ミニカー)を拡大提示しながら導入でクイズをして学習意欲を高める。</p>
4		<p>○トラックの「しごと」と「つくり」を読み取る。</p> <p>○「しごと」と「つくり」について説明した文に赤と青の線を引いて区別し、関係を確認する。</p> <p>○ワークシートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・50インチテレビ ・デジタル教科書 ・コンピュータ <p>☆デジタル教科書にある自動車の挿絵を拡大提示し、「しごと」や「つくり」を読み取るための手立てとなるようにする。</p>
5		<p>○クレーン車の「しごと」と「つくり」を読み取る。</p> <p>○「しごと」と「つくり」について説明した文に赤と青の線を引いて区別し、関係を確認する。</p> <p>○ワークシートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで自動車図鑑を作るために、どのようにカードを書いたらよいか教材で学習することを伝える。 ・二つの問いの文があることを確認し、「しごと」と「つくり」の二つのまとまりで構成されていることに気づけるようにする。 ・「しごと」の文には赤線、「つくり」の文には青線を引いて区別できるようにする。 ・「そのために」という言葉に注目させ、「しごと」と「つくり」には関連があることに気づけるようにする。 ・片仮名で書く言葉は板書し、筆順を示す。
⑥ 本時		<p>○本時の学習課題を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・50インチテレビ ・拡大提示装置 ・ミニカー <p>☆学習するはしご車(ミニカー)を拡大提示し、学習への興味関心を高める。</p>
		はしご車の「しごと」や「つくり」をみつけよう	
		<p>○はしご車の映像を見て、「しごと」や「つくり」など、気がついたことを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・50インチテレビ ・DVD・DVDプレーヤー <p>☆はしご車の映像を見せ、「しごと」や「つくり」を考える際の手立てとなるようにする。</p>
			<ul style="list-style-type: none"> ・発表の手がかりとなるように、黒

	<p>【読】映像や挿絵から、はしご車の「しごと」や「つくり」を読み取ることができる。 ☆発言・ワークシート</p>	<p>○教科書の挿絵を見ながら、「しごと」と「つくり」について確かめる。</p> <p>○みんなで見つけた「しごと」と「つくり」をもとに、ワークシートにまとめる。</p> <p>○次回の学習の予告をする。</p>	<p>板に教科書の挿絵の拡大コピーを提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しごとやつくり限定せずに、気がついたことを発表させる。板書する際には、「しごと」と「つくり」に分けながら、短い言葉で黒板にまとめる。 ・のびる、うごくなどの言葉の意味をおさえる必要がある場合には、ミニカーを拡大提示装置に映し、動かしながら全体で確かめるようにする。 ・板書でまとめたつくりに着目できるように、挿絵に○印をつけながら確かめていく。 ・挿絵の左側にはどんなシーンがあるかを想像させ、「しごと」に目が向くようにする。 ・板書の内容を手がかりにして、はしご車の「しごと」と「つくり」を結びつけて考え、自分の表現で書けるように声をかける。終わったら挿絵の色を塗ったり、周囲の絵を描いたりして待っているように声をかける。 ・次時に自分が書きたい自動車を選び、図鑑を作ることを知らせる。また、次時から使う本についていくつか紹介し、朝読の時間や休み時間にも探せることを知らせておく。
3	<p>7</p> <p>【関】図鑑を作るために、自動車についての絵本や図鑑を進んで読もうとしている。 ☆行動観察</p> <p>8</p> <p>【言】主語や述語</p>	<p>じどう車ずかんをつくろう。</p> <p>○家から持ってきた本や教室にある絵本や図鑑を読み、図鑑にのせたい自動車を選ぶ。</p> <p>○選んだ自動車の「しごと」</p>	<p>・拡大提示装置 ・絵本や図鑑 ・ミニカー ☆できるだけたくさんの絵本・図鑑・ミニカーなどを用意し、自分の好きな自動車を見つけられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めから自動車を決めて本を選ぶのではなく、本や図鑑の読み取りをもとに自動車を選ばせるようにする。 ・なかなか選べない児童には、2時間目に見た映像の中から気に入った自動車を思い出して一緒に本をめくったり、どんな自動車が好きか話したりしながら決めることができようにする。 ・前時までの学習と同様、ワークシートにまとめることを伝える。 ・本から「しごと」と「つくり」に

9	<p>の関係に注意して文や文章を読んでいる。</p> <p>☆ワークシート</p>	<p>と「つくり」を読み取り、短冊(赤と青)に書きぬく。(「しごと」が赤、「つくり」が青)</p>	<p>ついでの情報収集し、赤と青の短冊に分けて書くようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大切なことを落とさず、最初にもってこられるようにして清書する。
10	<p>【読】自動車についての情報を得るために、自動車の「しごと」と「つくり」がわかる文章を見付けながら読んでいる。</p> <p>☆発言・ワークシート</p>	<p>○短冊を赤、青の順に並べて、短冊をもとにワークシートに清書する。</p> <p>○挿絵を描く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 興味がある児童や早くできた児童は、ほかにも調べてワークシートにまとめてよいことを伝える。 ワークシートには、挿絵を添えることができるようにする。
11	<p>【関】いろいろな自動車について情報を得るために、自動車の「しごと」と「つくり」を説明した本や文章を選んで読もうとしている。</p> <p>☆発言・行動観察</p>	<p>○自動車図鑑を作り、学習をふりかえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> できあがったワークシートを紹介し、感想を発表し合うことができるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> 50 インチテレビ 実物投影機 <p>☆できあがったワークシートを拡大提示し、発表するときの手立てとなるようにする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 感想がなかなか言えない児童には、「初めて知ったこと」「いいなと思ったこと」などの観点を示し、充実した交流になるようにする。 ワークシートを一つにまとめて図鑑を作り、名前をつけるようにする。

【板書計画】

はしご車の「しごと」と「つくり」を
みつけよう。

教科書の挿絵

仕事をイメージできる
高い建物・助けを待つ人・火の絵

しごと

- ・たかいところの　ひを　けす。
- ・たかいところの　人を　たすける。

つくり

- ・はしごが　ながく　のびる。
- ・しっかりした　あしがでる。
- ・はしごのさき　人がのるばしよがある。
- ・はしごのさきに　ホースが　ついている。

50 インチテレビ

- ①はしご車のミニカー　提示
- ②はしご車の映像
- ③ワークシート提示

7. 実践を振り返って

本単元の学習において、教室にある ICT や図書資料といったメディアで学習内容への興味関心を高め、映像資料によって生活経験の個人差をフォローしながら、読み取りの内容を深める経験や読み取り方そのもののモデルになるような経験をさせたいと考え、取り組んできた。事前に家庭から持ってきたミニカーや絵本や図鑑など手に取ることができる環境設定、乗り物の DVD の活用、また、自分たちで「じどう車図鑑をつくる」というゴールを明確にすることで、学習意欲が持続し、楽しみながら学習を進める様子が見られた。

本時では「はしご車」の映像資料を活用した。この映像資料は、児童に着目してほしい「しごと」と「つくり」がしっかりと入っているものが必要であり、消防署の協力を得て作成したものである。実際に映像を見て「しごと」と「つくり」を考えていたり、言葉の理解が難しい児童にとって、はしご車の動きが映像から見て取れることで、言葉と動きが結びつきやすかったりした。放水する場面の水の勢いに驚き、「わあ！」と声を上げる姿やはしごがぐんぐんのびる様子に「すごい！」という声もれる姿は映像を児童なりに受け止めたよさであった。そのよさを学習の中でしっかりと生かすためには、指導者が映像から何を読み取らせたいかを明確にし、「何のために?」「なぜそうなっているのかな?」という投げかけをすることでもう少し深めることができたように思う。

また、映像から見つけたことが、自分の言葉にできずに発表にうまくつながらない児童もいた。隣の人とどんなことを見つけたのかを話すなど相談タイムのようなものを設け、全体での交流をさせるなどの工夫も必要であると感じた。

1年生にとって、動画は情報量が多く複数のものを理解させる難しさもある。情報量を制限できる静止面のほうが、児童の思考をより整理できたかもしれない。教科書の挿絵や手作りの絵の提示で再確認する時間をとったことがワークシートに各自でまとめる作業につながった。やはり、活用の意図を明確にした上で、映像資料、挿絵や手作り教材など、併せて活用していくことが児童の理解を促すことにつながると感じた。また、板書も児童にとっては情報である。児童から出た発言を整理し、ポイントを絞ってまとめたものが、「しごと」と「つくり」を結び付けて自分なりに書くための手立てとなった。

その後の「じどう車ずかん」を作る学習では、児童にとって「乗り物カード」が大きな役割を果たした。自分の書きたい自動車をカードから選び、選んだ乗り物と同じ乗り物を図書資料から探すことで、乗り物カードよりも詳しく書かれていることに気づき、写真や挿絵で確かめながら見つけることができた児童も多い。一方で説明や写真からではイメージが膨らまない児童は、個別に DVD で動画を見せたことで、「しごと」と「つくり」をおさえることができた。児童が主体的に「しごと」と「つくり」を書くために必要な情報を集めるために、児童の実態に合わせて複数のメディアを活用できたことが学習の充実につながった。



4. 今後の課題

○ 授業研究をふりかえって

授業研究の第1回をふりかえってみると、従来の授業にメディアを適切に組み合わせていくことで、子どもたちによりわかりやすく指導をすることができたと言えます。社会科の授業ではICT機器の活用をすることで、水産業が身近でない川崎市の子どもたちもサンマ漁の様子を具体的につかむことができました。国語科の授業では子どもたちの実態にあった資料を用意したり、その資料の読み取り方をつかませたりすることで、図書活用のよさを示すことができました。こうした手立てを通して、子どもたちはじっくりと考えながら学習を進めることができました。

授業研究の第2回では、南部・中部・北部、3つの部会から授業アイデアの提案を行い、授業の内容を決定する「授業原案選定会議」を実施しました。具体的な提案をすることによって、情報活用能力の学年間のつながりや授業時間のとり方、活用するメディアの種類など、より視点を明確にして議論を交わすことができました。この回では、教材となる映像を教員自ら撮影しに出かけました。授業にあった教材を作成することで、ねらいにあった資料を準備することができました。しかしながら、効果的な映像教材の使い方について議論がありました。映像教材にはたくさんの情報が含まれています。5年生の授業では、視点を明確にして視聴することができましたが、低学年には動画から内容を落とさずに情報を読み取ることは難しいということが確認できました。動機づけや、学習の確認などを目的とした方がよいのではないかと話し合いました。授業でのICT活用が進んでいく中、あらためて「情報活用能力の育成」の大切さを感じました。

○ 次年度への課題

数年来、私たちが掲げてきた研究サブテーマは「メディア活用で育てる情報活用能力、メディア活用で伸ばす確かな学力」です。「確かな学力」という言葉には、教科の学習がきちんと成立する、という前提がこめられていました。これまでの実践を通して、この前提は達成しつつあります。一方で、普通教室の教育環境としてのICT整備が進み、様々な情報メディアが活用可能になりつつある今、教育の情報化を進められるような学習指導法、つまり「授業デザイン」を提案していくことが私たちに求められているのではないのでしょうか。また、そのことは、【図書】【視聴覚】を統合してとらえ情意面の育成（豊かな心）を図っていこうという、「川崎の情報教育」の根底にある考え方にも叶っていると思います。

そこで、次年度は研究サブテーマを「情報活用能力を育てる授業デザイン」へと更新して2回の授業研究会を行うことにしました。第1回では情報活用能力を育成する場面を普段の授業に「広める」内容を扱いたいと考えています。第2回では、情報活用能力を「深める」内容を扱い、内容は「授業原案選定会議」でのプレゼンテーション・コンペティションで決定する予定です。

また、会員の先生方はもちろん、学校現場で情報教育に取り組もうとしている先生方に役立つような情報提供を、今後もしていきたいと考えています。今年度実施した各研修会や広報誌「情報かわら版」、webサイト等をさらに充実させつつ、志を共有できる仲間を増やしていきたいと考えています。私たち情報教育研究会は、子どもたちの自ら学ぶ力と豊かな心の育成をめざし、研究活動を続けていきます。

Ⅱ 1. 平成 24 年度活動経過

月 / 日	曜日	時間	活 動 名	会 場	内 容
4 / 11	水	18:00	拡大事務局会（お知らせ）	住吉小	・24年度体制の決定及び確認
4 / 18	水	15:30	常任委員会①	住吉小	・24年度活動計画案、組織編制 ・年間計画について ・各種事業について ・総会計画、役割分担
5 / 7	月	18:00	総会準備委員会 （お知らせ）	住吉小	・研究会総会準備 （冊子、次第の確認、提案練習等） ・主任会について （内容、進め方、役割分担の確認）
5 / 9	水	14:00	川崎市立小学校 情報教育研究会総会 演題「授業にいかす ―スーホの白い馬―」 セーンジャー 氏	住吉小	・23年度 活動報告 会計報告 ・24年度 活動計画 会計予算案 役員選出 ・講演
5 / 16	水	15:30	常任委員会②	宮崎台小	・研究の推進 （授業研究会①に向けて） ・主任会の準備と確認
6 / 6	水	15:30	主任会 図書主任会 視聴覚主任会	住吉小	・視聴覚主任の仕事 ・図書主任の仕事 （読書感想文コンクール募集要項と 学校図書館の運営について）
6 / 13	水	13:30	教育課程授業研究日	各会場校	} 終了後 お知らせ
6 / 20	水	13:30	教育課程授業研究日	各会場校	
7 / 4	水	13:30	第1回授業研究	宮崎台小	授業者 宮崎台小 藤沢先生、高橋先生
7 / 18	水	15:30	常任委員会③	宮崎台小	・夏季研修会（情報・図書）確認 ・小教研大会準備
7 / 24	火	9:00	小教研第51回研究大会	幸市民館・ 市立商業高校・ 御幸小・西御幸小	
7 / 27	金	9:00	夏季研修会（情報）	平小	センター共催研修
8 / 1	水	9:00	夏季研修会（図書）及び 大会準備	住吉小	・夏季研修会（アニメーション）
8 / 2 ～ 3	木 金		視聴覚団体・全放連 合同全国大会	代々木オリンピッ クセンター	
8 / 6	月	9:30	神奈川県 放送・視聴覚 夏季特別研修会	川崎市 （中原市民館）	・発表（放送、ICT、視聴覚）
8 / 20			図書 県SLA大会	東海大相模高校	
8 / 17 / 21	金 火		教育課程授業研究日	各会場校	

月 / 日	曜日	時間	活動名	会場	内容
8 / 29	水	15:30	常任委員会④	宮崎台小	・研究の推進 授業コンペ準備 ・読書感想文について
9 / 5	水	15:30	常任委員会⑤	宮崎台小	・研究の推進 授業選定会（コンペ）
9 / 19	水	14:00	読書感想文 地区審査	住吉小	・読書感想文地区審査
9 / 22	土	9:00	読書感想文 全市審査	住吉小	・読書感想文全市審査
10 / 3	水	15:30	常任委員会⑥	宮崎台小	・研究の推進 ・ビデオ映像創作展について ・読書感想文表彰式、読書感想画
10 / 17	水	15:30	常任委員会⑦	住吉小	・研究の推進 (授業研究会②に向けて) ・読書感想文校正作業 ・読書感想文表彰式最終確認 ・ビデオ映像創作展最終確認
11 / 2	金		平成 24 年度関東甲信越 放送・視聴覚研究大会	千葉県	
11 / 7	水	15:30	常任委員会⑧	宮崎台小	・研究の推進 (授業研究会②に向けて)
11 / 21	水	13:30	第 2 回授業研究日	真福寺小	授業者 真福寺小 武川先生
12 / 5	水	14:00	読書感想文コンクール 表彰式	川崎市 総合教育センター	・読書感想文表彰式 ・読書感想文 最終校正
		14:00	ビデオ映像創作展 地区審査	川崎市 総合教育センター	・ビデオ映像創作展審査
12 / 14	金	17:30	常任委員会⑨（お知らせ）	住吉小	・読書感想画審査会
12 / 19	水	15:30	常任委員会⑩	宮崎台小	・県小研中央大会に向けて ・研究のまとめ、 紀要作成について
12 / 26	水	9:00	第 31 回ビデオ映像創作展 全市審査	川崎市 総合教育センター	・ビデオ映像創作展全市審査
1 / 16	水	14:00	ビデオ映像創作展表彰式	川崎市 総合教育センター	・ビデオ映像創作展 表彰式
2 / 6	水		神奈川県小学校教育研究 中央大会 横浜大会	横浜市	・学校図書館発表 ・視聴覚発表
2 / 20	水	15:30	常任委員会⑪	宮崎台小	・年間反省 ・常任委員研修
3 / 6	水	15:30	常任委員会⑫	宮崎台小	・年間反省、研究のまとめ
3 / 27	水	9:30	拡大事務局会	宮崎台小	・24 年度年間反省研究冊子印刷 ・25 年度活動計画

(1) 平成24年度 情報（視聴覚・放送）主任会

日時 平成24年6月6日（水） 15:30～16:30
場所 川崎市立住吉小学校
参加者 81名（74校）

当日のプログラム

1. はじめのあいさつ
2. 本日の主任会の流れについて
3. 各区に分かれての情報交換会（分科会）
多摩区（3-1）、麻生区（図書室）、高津区（3-3）、宮前区（3-2）
中原区（図工室）、幸区（理科室）、川崎区（視聴覚室）
4. おわりのあいさつ

※終了後の希望者対象とした研修 「学校ホームページの運用について」

各学校の情報（放送・視聴覚）主任を対象にした主任会を開催した。参加人数も例年並みと定着してきた様子が見える。

主任会では、各区ごとの情報交換・交流会を中心として行い（H23年度から実施）、常任委員を中心に会員の抱える情報（放送・視聴覚）に関する不安や悩みについて意見交換を行った。

各区の情報主任からは、導入されたばかりのタブレット端末「かけるもん」に関する質問や、「情報モラル」の年間指導計画に関する質問、「電子版のびゆくすがた」、「ホームページ」に関する質問など現場が今抱えている問題等について多くの声が聞かれた。これらに対し、様々な角度からアドバイスや意見交換を行った。

主任会終了後には、今年度も希望者に向けた特別研修を行った。

今年度は、ICT支援員制度の打ち切りや、それに伴うホームページ制作業務の負担増などのニーズに合わせ「学校ホームページの運用について」の研修を行った。

今回は、ホームページの基本的な構造の説明に始まり、校内の運用の方法について現場の声を交えながら展開するという流れで実施した。

希望研修の参観者は、いずれもホームページ管理に携わったことの無い人が多く、関心を持って研修に望んでいた。終了後には、具体的な質問を持ち寄り相談する場面が見られるなど、この分野へのニーズの高まりを感じた。

今年度も情報（視聴覚・放送）主任会を通してそれぞれの学校での悩みや相談について有意義な情報交換を行うことができた。

(2) 図書主任会

《日時》 平成24年6月6日(水) 15:30～

《場所》 川崎市立住吉小学校

《主な内容》

読書感想文コンクールについて

- ・9月に行われる読書感想文コンクール地区審査にむけての年間の流れや応募要項の確認。

図書主任の仕事について

- ・図書主任の年間の仕事についての説明。
- ・学校図書館の役割についての研究報告。

実践報告

- ・5年国語「図書館改造提案」

児童が作成した映像を交えながら、5年生の国語教材の「わたしたちの『図書館改造』提案」の授業実践を報告。

読書感想画コンクールについて

- ・12月に行われる読書感想画コンクールについて、応募要項の確認。

《1年間の流れ》

6月6日(水) 図書主任会(住吉小)

読書感想文コンクールの応募について
読書感想画コンクールの応募について
図書主任の役割、学校図書館の役割について
実践報告

図書主任の仕事

9月19日(水) 読書感想文川崎市地区審査会(住吉小)

地区入選作品を選ぶ。

学校代表作品選びと提出準備

チェックリスト確認

各校図書主任による地区審査

9月22日(土) 読書感想文川崎市審査会

神奈川県読書感想文コンクール審査会に提出する作品を選ぶ。

「本をよんで」に掲載する学校推薦作品決定。
(地区入選がなかった学校のみ)

「本をよんで」掲載作品決定。

12月5日(水) 読書感想文コンクール川崎市表彰式

12月14日(金) 読書感想画審査会

(「本をよんで」表紙と巻頭掲載作品決定)

2月中旬 「本をよんで」配付

神奈川県読書感想文画集 配付

(3) 夏期会員研修会 (ICT)

今年度も昨年度に引き続き、「日常的に・だれにでもできるICT活用で、わかる・楽しい授業づくり」として、川崎市立平小学校において、川崎市総合教育センターとの共催研修を行った。夏休みの開催とあって申し込みも多数あり、当日は85名の参加があった。

午前の部では、エルモ社から講師2名を迎えて、教材提示装置やワイヤレスペンタブレットの使い方や活用実践例を紹介してもらい、その後3～5人ずつ13教室に分かれて、クエスト形式でICT機器の接続の仕方から操作の仕方まで、実際に体験しながら学んだ。基本的な接続に関してはどのグループもスムーズで、ICTの活用が進んでいることが感じられた。またエルモ社の機能紹介を基に、「ズームしてみる」「動画にしてみせる」「マスキングする」「比較をしてみせる」など便利な機能も操作を通して確認することができた。



午後の部では、「日常的に使う」「わかる授業」をキーワードにして、実際の授業場面を考えた。夏休み後の授業にすぐに生かせる内容や指導案を考えるグループや、ペンタブレットの機能から授業への活用方法を考えるグループなど、様々であった。最後に数グループによる発表があり、「手のデッサンと実際の手を比較しながら描き方のポイントを指導する」「社会科資料集の人物像を生かして描く」

「音楽の鍵盤ハーモニカの運指を拡大して指導」など、ICTを効果的に活用した授業場面を共有できた。

参加した会員からは次のような感想が寄せられた。

- ・ 少人数だったのと、常任委員の方がていねいにおしえてくださったので、日頃疑問に思っていたことなどを気軽に話せて良かった。
- ・ ICTを使っていく上での引き出しが増えたと思う。
- ・ いろいろな学校の先生方と親しくお話させていただき、いろいろ参考になりました。
- ・ 実際に機器を使い、操作方法がよくわかりました。考えていたほど操作も難しくなく、今まで活用していなかったのがもったいなかったです。
- ・ いろいろな授業でのICT活用を考え、学んだので、9月から積極的に活用して行きたいです。

また今後の研修については、

- ・ いろいろなソフトの紹介をしてほしい。
- ・ 教科ごとのICT活用法を知りたい。
- ・ 授業作りのワークショップを続けてほしい。
- ・ ICTを活用して有効だったという授業の指導案があったらと思う。

以上のような要望が挙げられた。今年度の会員の意見を基に、来年度以降も会員の希望に添う、ICT活用の場面が広げられるような研修会を開いていきたい。



(4) 夏期会員研修 (図書)

「アニマシオン」を体験しよう

日時 平成 24 年 8 月 1 日 (水) 9 : 30 ~ 12 : 00

会場 川崎市立住吉小学校

参加者 約 60 名

講師 小山公一先生

(読書のアニマシオン研究会会員 元私立小学校教諭)

研修報告

「アニマシオンを初めて知る」「アニマシオンという言葉は知っているけれど、どんなふう実践したらよいかわからない」という参加者が多かった。

小山先生による講話の後に、アニマシオンのワークショップを体験した。

講話ではアニマシオンが生まれた背景や、海外での取り組みを紹介していただいた。アニマシオンには「25 の作戦」「75 の作戦」など、「作戦」と呼ばれる様々な手法がある。「作戦」の楽しさだけで終わらないようにねらいをもって取り組ませることやゲームを通して楽しみながら子どもたちを本の世界に引き込んでいくことの重要性を学ぶことができた。

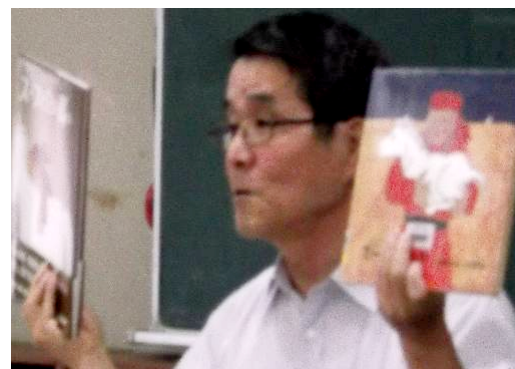
ワークショップでは、まず 2 年生の教科書にある『スーホの白い馬』を使った活動が紹介された。物語を場面ごとに分け、小見出しをつけるゲームや内容に関するクイズを出し合うゲームを通して読みを深めることができた。

次に、オノマトペを含んだ詩を使った活動が紹介された。参加者が意見を交わしながら、詩の空欄部分に入るオノマトペを真剣に考える姿が印象的だった。

どちらの活動も、本の世界へ楽しく入ることができる内容だった。また、読みが深まり語感が磨かれるなど、学年を問わず読みの学習に使える手法であるという意見も出た。

わかりやすい講話と、大人でも楽しく参加できるワークショップを通して、授業にすぐに生かせるアイデアを得ることができた。

研修後には、「実態に応じてアレンジし、夏休み開けに教室で取り組みたい。」「楽しい内容で、時間が短く感じられた。」「紹介された本を学校でも購入したい。」などの声が聞かれ、好評だった。



(5) 読書感想文・読書感想画

【平成24年度事業日程】

○第58回青少年読書感想文コンクール関係

●第24回読書感想画中央コンクール関係

☆読書感想文集「本をよんで」第52号編集発行関係

市の活動		県の活動	
6/6	○図書主任会（住吉小） ○読書感想文コンクール応募要項説明、関係書類配布	5/10	定例総会
9/19	○読書感想文コンクール各地区審査会（住吉小） ●読書感想画コンクール応募要項書類各校配布	6/15	感想文感想画審査委員名提出
9/22	○読書感想文コンクール川崎市審査会（住吉小） ☆市審査最優秀、優秀作品寸評記入	8/20	学校図書館夏期研究大会
9/20	☆読書感想文集「本をよんで」掲載者作品等の原稿入れ ☆読書感想文集「本をよんで」予約申込書・チラシ校正 ・掲載者名簿原稿入れ	10/4	読書感想文コンクール地区代表作品一覧表報告
10/4	☆読書感想文集「本をよんで」まえがき原稿依頼 ○読書感想文コンクール市表彰式関係提案 ○読書感想文コンクール市表彰式出席依頼 ○読書感想文コンクール入選者一覧表各校配布	10/14	読書感想文コンクール地区代表作品搬入
10/15	☆読書感想文集「本をよんで」予約申込書・チラシ ・掲載者名簿各校配布	10/17	～10/31 第一次在宅審査 読書感想文コンクール第
10/17	○読書感想文コンクール表彰式事前準備（住吉小） ☆読書感想文集「本をよんで」第1次校正（住吉小）	11/15	一次審査結果報告
10/26	☆第1次校正原稿入れ ○読書感想文コンクール表彰式冊子原稿入れ	11/15	～11/26 第二次在宅審査
11/9	☆読書感想文集「本をよんで」地区申し込み締切	11/27	読書感想文コンクール県
～11/16	代金納入	最終審査会	
12/5	○読書感想文コンクール市表彰式（川崎市総合教育センター） ☆読書感想文集「本をよんで」第2次校正 （川崎市総合教育センター）	12/25	県読書感想文画集校正
12/7	●読書感想画コンクール応募作品地区提出	1/15	読書感想文画コンクール
12/14	●読書感想画コンクール市審査会（住吉小） 読書感想文・感想画賞状各校配布 ●読書感想画掲載作品原稿入れ ●読書感想画コンクール入選者一覧表各校配布	地区代表作品一覧表及び 作品提出	
12月	☆読書感想文集「本をよんで」各校で最終確認	1/17	読書感想文画コンクール 県審査会
12/26	☆読書感想文集「本をよんで」第2次校正原稿入れ	2/19	読書感想文・読書感想画コ ンクール表彰式
2月上旬	☆読書感想文集「本をよんで」発行・各校配布	2月中旬	県読書感想文画集発行
2・3月	☆読書感想文集「本をよんで」を委員会・センターへ送付		

(6) 第32回ビデオ映像創作展

① 主旨

児童や教職員が制作したビデオ映像作品を発表し合うことによって、ビデオ映像制作技術の向上を図り、併せて、伝達したいことを映像によって表現する力を育てる。

② 実施期日

平成24年12月 5日 (水) 地区審査会 川崎市総合教育センター
平成25年12月26日 (水) 全市審査会 川崎市総合教育センター
平成25年 1月16日 (水) 表彰式 川崎市総合教育センター

③ 参加作品

児童の部：25点 教職員の部：7点 計32点

④ 受賞作品

<児童の部>

最優秀賞 KHI 放送委員会 紹介ビデオ 久地小学校 放送委員会

優秀賞 10月の生活目標 橘小学校 放送委員会

優秀賞 5年生プロデュース ～図書室かいぞうていあん～ 岡上小学校 5年2組

奨励賞 うちゅうの友達 三田小学校 十川 向日葵

奨励賞 ナンバー1公園そうせんきょ 三田小学校 3年2組オールスターズ

奨励賞 熱中症の予防 住吉小学校 健康委員会

学校賞 川崎市立久地小学校
川崎市立下布田小学校

(学校賞は毎年たくさんの作品を応募し、学校全体で映像作りに取り組んでいる学校を対象としている。)

<教職員の部>

最優秀賞 職員室におつかいに行こう 住吉小学校 甲斐 奈津美、野原 澄貴

奨励賞 そうじのしかた 三田小学校 石橋 純一郎

奨励賞 大豆から豆腐を作ろう はるひ野小学校
山岸 木聖、唐鎌 信夫、涌井 陽介
菅原 央子、栗栖 里加

新人賞 笑い・友情・絆 6年3組 思い出シアター 三田小学校 酒井 慎一

3. Webサイト・情報かわら版

(1) Webサイト

本研究会の活動内容や成果を広くアピールし、川崎市内における情報教育の普及・発展に寄与するため、Webサイトを運用しており公開から13年目を迎えた。

①研究のページ

過去の研究授業の指導案(平成17年から)を掲載し川崎の情報教育の目指す授業について紹介している。また、過去に出された「ICT活用実践集」を掲載し、各教室に配置された50インチ大型テレビの活用や「誰でも」「気軽に」「日常的に」使えるICT活用のアイデアをまとめている。また、「50インチTV接続方法」や「50インチTVの操作についてのQ&A」も載せてある。

②便利に活用できる「資料室」のページ

過去の研究紀要や今まで研究会で取り組んできたことについて、その資料をアップしている。



トップ情報 研究 事業 地区 広報 資料室

トップページ > (現在の位置) 資料室

川崎市立小学校情報教育研究会 資料室

資料名	概要	資料
平成24年度第2回研究授業リポート	研究計録 資料	PDF (0.3MB)
平成24年度第2回研究授業指導案	図書・ICT活用 研究授業指導案	(0.4MB)
平成24年度第1回研究授業指導案	図書活用 研究授業指導案	(0.2MB)
平成24年度第1回研究授業指導案	ICT活用 研究授業指導案	(0.2MB)
平成22年度研究紀要	平成22年度研究紀要	(2.23MB)
ICT活用アイデア実践集2010	たれでも、気軽に、日常的に使えるICT活用実践集	(2.91MB)
平成21年度研究紀要	平成21年度研究紀要	(2.49MB)
平成20年度研究紀要	平成20年度研究紀要	(15.2MB)
平成19年度研究紀要	平成19年度研究紀要	(20.4MB)
平成18年度研究紀要	平成18年度研究紀要	(5.16MB)
ビデオカメラを上手に使う	映像制作講習会で使用されているテキスト。放送委員会の児童用マニュアルとしても最適。	(131KB)
今日からアナウンサー	映像制作講習会(旧アナウンス講習会)で使用されているテキスト。放送委員会の児童用マニュアルとしても最適。	(198KB)
情報教育のリテラシー育成計画	平成13年度に小情報で作成された計画。	
読書活動年間計画	読書活動・情報活用の計画。(小学1～6年)	
メディア活用能力育成の指導体系	図書鑑活用・読書指導の視点から作成された、活用能力育成の指導体系。	

ICT活用アイデア実践集2010

1年	国語	ほなのみち	中田優真(下平間小学校)
	国語	くろくも	中田優真(下平間小学校)
	算数	いくとくく	田中啓介(平小学校)
	生活	まいりほわやかもちろちろ	中田優真(下平間小学校)
	音楽	きわいのおとでふまじょう	中田優真(下平間小学校)
	図工	でてきたできたまきまき	石橋純一郎(菅小学校)
2年	国語	あつたれいりごん こんだの	浜崎俊治(野川小学校)
	算数	ひょうやグラフにせいりして	佐藤拓(栢生小学校)
	生活	電車にのって、可にとびだす	佐藤拓(栢生小学校)
	音楽	リズムにのってあそぼう 山のボルカ	浜崎俊治(野川小学校)
3年	国語	本は友だち	高橋妙子(上作延小学校)
	算数	円と球	片岡義順(岡上小学校)
	理科	チョウとまてよう	高橋妙子(上作延小学校)
4年	社会	海防施設調べ	福山創(平小学校)
	体育	デジタルカメラでフォームチェック	福山創(平小学校)
	特別活動	本当はけんかしたくない	片岡義順(岡上小学校)
5年	算数	住居	鈴木朱美(宮崎台小学校)
	理科	種から実へ	鈴木朱美(宮崎台小学校)
	理科	わたしたちの気象台	倉田亨(はるひ野小学校)
6年	算数	単位数あたりの大きさ	武川勝子(真福寺小学校)
	理科	生物かんまよう	武川勝子(真福寺小学校)
	理科	月と太陽	石黒祐也(徳町小学校)
	理科	水溶液の性質	石橋純一郎(菅小学校)
	家庭科	まかせてね! 今日のごはん	武川勝子(真福寺小学校)
その他	学校行事	入学式のご案内	田中啓介(平小学校)
		50インチテレビ接続方法	
		Q&A	

(2) 情報かわら版

Webサイトだけでなく、紙面も活用して、本研究会の活動内容や成果をアピールしている。

「情報かわら版」という名称で、研究授業の要点などを紹介している。

お わ り に

情報教育研究会の研究や事業は二つの面を持っています。各教科のねらいを達成するためにメディア活用を推進し、広めていく方向と、情報活用能力そのものを深く研究していく方向です。情報教育は一つの教科ではなく、情報活用能力の育成は各教科にちりばめられ、任されています。そこで、教科のねらいに基づき、メディア活用の効果を検証する研究主題サブテーマの「メディア活用で伸ばす確かな学力」という視点はどちらかというところ「広める」方向です。情報活用能力そのものを探る「メディア活用で育てる情報活用能力」という視点は「深める」方向です。情報活用能力は理解力、思考力、判断力、表現力など、様々な能力を包括し、総合した能力です。まさに生きる力そのものといえる能力です。情報活用能力の育成は、これからの教育課題の真ん中にある重要な研究課題であると認識しています。

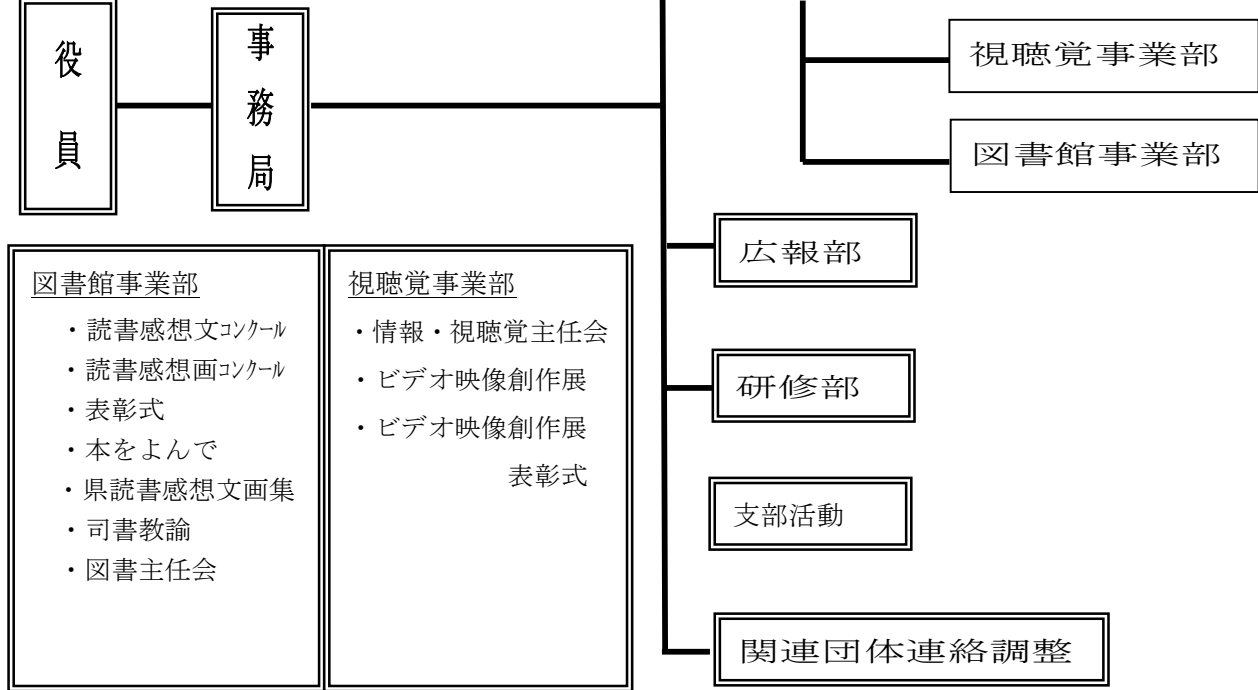
さて、今年度の情報教育研究会は、新たに取り組んだことがいくつかあります。その一つが、どのような授業研究に取り組むかを考える場として、「授業原案選定会」を設けたことです。まず常任委員が3つの地区に別れてチームを作ります。そこで「授業研究を通して何を検証したいか」の意見を交換し、授業原案をまとめます。その原案を選定会へ持って行くために、それぞれにプレゼンテーションを考え、準備します。選定会では3地区の提案を見て、役員を含めた常任委員全員で投票を行い、授業原案を決定します。その後、授業者を選出します。そして、授業までの掘り下げや準備を、授業案が選定された地区のメンバーが中心となって、全常任委員で協力して進めるという方式です。この方式ですと、全ての常任委員が授業研究に携わることができます。また、他の委員の考えを知る機会も多くなり、互いに学びあうことができます。情報教育研究会は、様々な事業や研修会を行い、小学校教育に貢献しています。それを支えているのは常任委員ですが、研究会は常任委員にとっても魅力のあるものでなくてはならないと考えます。小学校教育研究会の本来あるべき姿を求め、互いに学びあうことができる研究会を目指していきたいと考えています。

最後になりましたが、本研究会に、的確なご指導と幅広いご支援をいただきました川崎市教育委員会の皆様、川崎市総合教育センターの皆様には厚く御礼申し上げますと共に、今後も引き続きご指導、ご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

川崎市立小学校情報教育研究会
副 会 長 中 田 浩 彰

平成24年度

川崎市立小学校
情報教育研究会
組織図



<p><u>図書館事業部</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書感想文コンクール ・読書感想画コンクール ・表彰式 ・本をよんで ・県読書感想文画集 ・司書教諭 ・図書主任会 	<p><u>視聴覚事業部</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報・視聴覚主任会 ・ビデオ映像創作展 ・ビデオ映像創作展 表彰式
---	---

事務局会	<ul style="list-style-type: none"> ・会長 ・顧問 ・副会長 ・事務局長 ・事務局次長 ・書記 ・会計 ・会計監査 ・研究部長 ・事業部長 ・広報部長 ・研修部長 ・支部長 	<ol style="list-style-type: none"> 川崎市学校視聴覚研究協議会 全国放送教育研究会連盟 日本学校視聴覚教育連盟 日本教育工学協会 神奈川県放送教育研究協議会 神奈川県視聴覚教育研究協議会 情報化推進指導者養成研修会 情報化推進協議会<センター> 平和教育映像教材等選定委員<センター> わが町かわさき映像創作展審査委員会<センター> 川崎市学校図書館協議会<2年継続> 読書のまち かわさき事業 神奈川県学校図書館協議会 読書の学校 かわさき図書館フォーラム
企画会	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局会・各副部長 ・関係担当者 	

平成 24 年度 研究に携わった人

役 員	
会 長	平井 弥三郎 (宮崎台)
副 会 長	中田 浩彰 (有馬) 金子 進一郎 (幸町) 長沼 国徳 (渡田)
	飯田 智芳 (白幡台) 竹口 政雄 (新作) 横田 不二夫 (西有馬)
	井部 良一 (はるひ野) 山田 和秀 (鷺沼)
顧 問	秋場 尚樹 (さくら) 高橋 邦夫 (坂戸) 掛井 孝明 (南百合丘)
	石堂 真理子 (住吉)
会 計	加藤 愛 (下沼部) 高橋 恵 (宮崎台)
会計監査	若林 民夫 (中原) 水沼 富士位 (下小田中) 和田 和子 (久本)
事務局	椎名 美由紀 (土橋) 田中 啓介 (平) 片岡 義順 (下布田)
書 記	甲斐 奈津美 (住吉) 藤沢 俊太 (宮崎台)
特別常任委員	常 任 委 員
藤生 豊 (野川)	【川崎区】
山口 嘉徳 (荻宿)	小松原 和人 (東小田) 三宅 裕之 (さくら)
池谷 保久 (大戸)	浜崎 俊治 (大島) 細川 直弥 (浅田)
清水 弘彦 (下小田中)	【幸区】
家才子 雅樹 (梶ヶ谷)	添野 雅美 (南河原) 中田 優夏 (下平間)
岩田 昭彦 (久地)	根井 光洋 (古川)
青木 あゆ子 (宮崎台)	【中原区】
	池田 ふみ子 (住吉) 佐藤 俊明 (荻宿)
	中村 幸江 (下小田中) 高橋 妙子 (下小田中)
	鈴木 聡 (下小田中) 川村 昌弘 (大戸)
	宮崎 誠 (平間)
	【高津区】
	西田 直美 (子母口) 関谷 洋平 (末長)
	草柳 譲治 (南原) 禿 信成 (梶ヶ谷)
	【宮前区】
	福山 創 (平) 長澤 拓也 (平)
	【多摩区】
	石橋 純一郎 (三田)
	【麻生区】
	谷澤 伸英 (南百合丘) 武川 恭子 (真福寺)
	佐藤 拓 (柿生) 平野 智久 (柿生)
	三浦 美保 (はるひ野) 栗栖 里加 (はるひ野)
	松本 武 (千代ヶ丘) 町田 和隆 (長沢)

平成 24 年度 研究紀要

「自ら学ぶ力と豊かな心を育てる情報教育をめざして
— メディア活用で育てる情報活用能力、
メディア活用で伸ばす確かな学力 —」

発 行 川崎市立小学校情報教育研究会

発行日 平成 25 年 3 月

.....

製 本 (有) 中溝グラフィック

TEL 044(333)2787 / FAX 044(333)7786
